

様式1

平成28年度 山口県立防府商工高等学校(定時制) 学校評価書 校長(栗林 正和)

1 学校教育目標 教育目標……学び直し、自己実現の支援 中・長期目標……①将来への道づくり ②輝く人づくり ③開かれた学校づくり ④いきいき環境づくり

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて) ①ほぼ希望通り進路実現がなされている。基礎学力や資格取得に努め、生徒一人ひとりの能力と資質に応じたキャリア教育を一層推進する必要がある。 ②わかる授業につとめたため、授業の質は生徒や保護者から高い評価を得ている。今後は、生徒が体験的な活動に引き続き参加できるように促し豊かな心の育成に努める必要がある。 ③地域の商店経営者や短期大学など関係諸機関との連携の強化を図り、情報発信に一層努め、定時制教育の進め方について学校内外でよく見えるようにする必要がある。 ④教員と保護者、教員とSCとの連携は図られている。今年度は、昨年度に引き続きこの連携を雇用主を含め多角的に推進することで、教育の環境づくりをより質の高いものとする必要がある。

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題 ①卒業後を見通した進路指導体制の整備 ②基礎学力の充実と体験的な学習の推進 ・学ぶ意欲と達成感を実感できる自己有用感の醸成 ・社会性と公共心の育成(あいさつ、言葉遣い、服装、身だしなみ、掃除) ・相手の人格といのちの尊厳を大切にすることの醸成 ③地域支援と積極的な情報発信と連携 ④保護者、雇用者との連携 ・SC、養護教諭と連携した教育相談の推進 チャレンジ目標 — 自ら修めて我に克つ — ①希望する生徒全員の正規就職、進学の実現 ②無断欠席、無断遅刻ゼロ ③各種資格検定へのチャレンジと講習への参加

4 自己評価					5 学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
校務	・学校と家庭や職場との連携	定時制通信の発行を通して、就労などで多様な生活を送る生徒の様子を情報発信に努め、家庭や職場と連携を図る。	4: 学校と家庭や職場との連携が十分に行われていると評価する教職員が90%以上である。 3: 学校と家庭や職場との連携が十分に行われていると評価する教職員が80%以上である。 2: 学校と家庭や職場との連携が十分に行われていると評価する教職員が70%以上である。 1: 学校と家庭や職場との連携が十分に行われていると評価する教職員が70%未満である。	4	・定時制通信を年3回発行した。配付先は、PTA役員及び定時制の保護者全員をはじめ、生徒の勤務先にも行き渡るよう努力した。まちかどフェスタでは一般の方にも配布し、防府商工定時制の様子をお知らせすることができたので、全定を含めた学校内外の連携を十分図れた。	定時制の生徒の大半は就労しているという認識が強い。全日制と違い、保護者・雇用主・学校の三位一体で連携を図ることは大変なことである。今後「定時制通信」等を発行し連携を推進して欲しい。	A
	・基礎学力の定着	・義務教育段階での既習内容の確認を確実にしながら、高校で新たに習う基礎的内容の定着を図る。	4: 「授業内容が解る」とした生徒が80%以上である。 3: 「授業内容が解る」とした生徒が70%以上である。 2: 「授業内容が解る」とした生徒が60%以上である。 1: 「授業内容が解る」とした生徒が60%未満である。	4	「授業や実習の内容が理解できる」という質問に対して、「そう思う」と答えた生徒が61%、「ややそう思う」と答えた生徒が25%であった。今後は基礎学力の応用・発展に向けて、より工夫をしていきたい。	義務教育段階の学習の学び直しに取り組んでおられるので、今後とも「わかる授業」の実践に取り組んで欲しい。	A
教務	・授業力の向上と工夫・改善	・遅刻や私語の防止などの対策を工夫しながら授業への集中度を高めるとともに、授業研究などを通じて、生徒の興味を引く授業等の工夫・改善を進める。	4: 「授業内容に満足」とした生徒が80%以上である。 3: 「授業内容に満足」とした生徒が70%以上である。 2: 「授業内容に満足」とした生徒が60%以上である。 1: 「授業内容に満足」とした生徒が60%未満である。	4	授業の内容に対する質問を6つ行い、どの質問にも86%以上の生徒が肯定的な評価をしている。今後も生徒の興味・関心を引く授業を目指して、さらなる工夫・改善をしていきたい。	生徒の学力に応じた授業内容になっている。時代の変化が激しい中、生徒の興味・関心の変化を的確に捉え教員の授業力の向上に努めて欲しい。	A
	・基本的な生活習慣の確立	無断欠席、遅刻をなくす。	4: 無断欠席、遅刻者が6%以内である。 3: 無断欠席遅刻者が12%以内である。 2: 無断欠席遅刻者が18%以内である。 1: 無断欠席遅刻者が18%以上である。	4	無断欠席はなくなったが、遅刻者については同一の生徒に多く見られることから、早めの登校を促すようにしたいと思う。	就労している生徒が、忙しさにかまけて遅刻の連絡を忘れてしまうことがあるかもしれない。規律ある学校生活のために生徒の出席のチェックに今後とも努めて欲しい。	B
生徒指導	・生徒による自主的な生徒会活動の推進	・生徒の主体性を生かしながら、生徒会活動の活性化を図る。	4: 10回以上生徒会活動を行った。 3: 8回以上生徒会活動を行った。 2: 6回以上生徒会活動を行った。 1: 6回未満生徒会活動を行った。	4	事前に打ち合わせ会を行うことで、各々の役割分担が確認することができ、各行事をスムーズに進行することができた。	生徒が学校にいる時間が短い、工夫して生徒と打ち合わせをしてよく学校行事に取り組んでおられると思う。	A
	・安心・安全な学校づくりの実現	・学校行事として、交通、薬物に関する講話と災害や津波の避難訓練を実施する。	4: 学校行事を4回実施した。 3: 学校行事を3回実施した。 2: 学校行事を2回実施した。 1: 学校行事を1回実施した。	4	実際に現場で携わっておられる警察の方に講演を行っていただくことで、学校の安心・安全が自分のこととして捉えることができたように思う。	現代では、安心・安全は社会の大前提の事項である。今後とも外部の人を巻き込み効果的な安全教育に努めて欲しい。	A
進路指導	(就職) ・就職希望者が全員正規社員として就職	・学年に応じた進路指導を充実する。 ・求人情報を提供する。 ・求人開拓をして求人確保を確保する。	4: 就職希望者の80%以上が正規就職した。 3: 就職希望者の60%以上が正規就職した。 2: 就職希望者の40%以上が正規就職した。 1: 就職希望者の40%未満が正規就職した。	4	進路ガイダンスや個別面談等を通して生徒のキャリアアプランに応じた指導ができた。今年度の卒業予定者に就職希望者はいなかった。	就職する生徒は、今年度はなかったが、学校としての就職支援体制は継続的に整え来年度に向けて準備して欲しい。	A
	(進学) ・進学希望者全員が希望する進学先に進学	・進学情報を収集する。 ・個別指導を徹底する。	4: 進学希望者の80%以上の進学が決定した。 3: 進学希望者の60%以上の進学が決定した。 2: 進学希望者の40%以上の進学が決定した。 1: 進学希望者の40%未満の進学が決定した。	4	課外や面接指導等の効果もあり、推薦入試で希望者全員が合格することができた。	生徒の希望に沿って、全員の進学希望をかなえていってほしい。今後とも生徒の進路の実現に努めて欲しい。	A
教育相談	・教育相談体制の充実	・SCや養護教諭、担任と連携した教育相談を推進し、いじめや自傷行為等、問題行動の実態把握やその解決に努める。	4: 8割以上の生徒が「学校生活に満足し相談のしてくれる先生がいる」と答えた。 3: 6割以上の生徒が「学校生活に満足し相談のしてくれる先生がいる」と答えた。 2: 4割以上の生徒が「学校生活に満足し相談のしてくれる先生がいる」と答えた。 1: 4割未満の生徒が「学校生活に満足し相談のしてくれる先生がいる」と答えた。	4	SCや養護教諭、担任と情報を共有し共通理解を深めるとともに、必要に応じて外部機関とも連携をとり、生徒の抱える諸問題についての解決に努めた。	生徒の価値観が多様化している中で、生徒の学校生活に満足感をもたらすことは難しい点があると思うが、スクールカウンセラーなどの方と連携をとって今後とも生徒が満足感をもてるように工夫を重ねて欲しい。	A
	・生徒課と連携した会議などで外部への情報発信	・生徒会やPTAと協力して生徒の生活情報を発信する。	4: 外部への情報発信が6回以上であった。 3: 外部への情報発信が5回以上であった。 2: 外部への情報発信が4回以上であった。 1: 外部への情報発信が3回以下であった。	4	まちかどフェスタでは、生徒会がPTAの方々に協力して準備や片付けを行い大変感謝されるなど、今後とも生徒の学校での状況を発信して行きたい。	情報部が他の校務分掌と連携して情報発信しておられる姿をみて、定時制での外部との連携が進んでいる姿がよくわかる。	A
専門	・資格取得の奨励	・資格取得を奨励し、課外等を行い、合格者数を増やす。	4: 合格者数が昨年度より20%増加した。 3: 合格者数が昨年度より10%増加した。 2: 合格者数が昨年度並みであった。 1: 合格者数が昨年以下であった。	4	漢字検定では準2級に、全商簿記実務検定では、1級(会計)に、日商簿記検定では3級に、ビジネス文書実務検定では2級などに合格するなど、資格取得の中身が充実してきている。	先生方の取組により資格取得の実績があがっているように思う。今後は、一層の実績が上がることを望む。	A
	学校の組織等	・昨年に引き続きベテラン教員の業務のノウハウを蓄えた「知恵袋」を校内のコンピュータ内に作成し、将来若手教員が増加した場合の円滑な学校経営に備える。	4: 業務のノウハウの蓄積が進んだとする教職員が90%以上である。 3: 業務のノウハウの蓄積が進んだとする教職員が80%以上である。 2: 業務のノウハウの蓄積が進んだとする教職員が70%以上である。 1: 業務のノウハウの蓄積が進んだとする教職員が70%未満である。	3	「知恵袋」の作成も今年が2年目になり、主だった定型業務のノウハウのデータベース化を果すことができた。今後は業務を行う上で、定時制課程で特に留意しなければいけない点などをまとめ、全日制課程からの異動してきた教員にも備えることが大切である。	「知恵袋」の作成は、人手不足の傾向にある実社会でも参考になる。今後とも継続的な取組を行い、人事異動があっても円滑な業務内容の伝達ができるように努めて欲しい。	B
業務改善	日常的な業務	・連絡会やその他の会議を随時に開催し、職員間の共通理解を図ることで業務の遂行を円滑に行う。	4: 共通理解を図る場が随時もたれ、円滑に業務が遂行できたとする教職員が90%以上である。 3: 共通理解を図る場が随時もたれ、円滑に業務が遂行できたとする教職員が80%以上である。 2: 共通理解を図る場が随時もたれ、円滑に業務が遂行できたとする教職員が70%以上である。 1: 共通理解を図る場が随時もたれ、円滑に業務が遂行できたとする教職員が70%未満である。	3	連絡会やその他の会議は必要に応じて開催することができたので、入学前に抱えていた不登校や学力の問題を話し合い、適宜解決することができた。今後は、個々の問題を掘り下げ、時系列で解決の様子がわかるようにすれば、共通理解をより深めることができる。	定時制の場合、全日制に比べて多様な生徒が在籍しているようである。共通理解を図ることは困難な点もあるだろうが、きめ細かな情報交換により円滑な業務の遂行に努めて欲しい。	B
	勤務状況	・通信制に協力する教員など定時制教員の多様な勤務の仕方を考慮し、勤務の割り振りを適切に変更し、効率的な勤務を行う。	4: 勤務の割り振りを適切に変更し、効率的な学校運営ができたとする教職員が90%以上である。 3: 勤務の割り振りを適切に変更し、効率的な学校運営ができたとする教職員が80%以上である。 2: 勤務の割り振りを適切に変更し、効率的な学校運営ができたとする教職員が70%以上である。 1: 勤務の割り振りを適切に変更し、効率的な学校運営ができたとする教職員が70%未満である。	4	通信制勤務の教員をはじめ、勤務時間の都合で休憩時間に校外巡視に当たる教員がいるなど、全教員が同じ時間帯で勤務することが困難な実態があるが、空き時間を利用して会議をもつなど少人数の職場の特性を生かして業務を行ったので、効率的な勤務を行うことができた。	通信制勤務や生徒の登校時の校外巡視など、各教員の役割に応じた勤務状況を考慮すると、先生方の工夫により効率的な勤務が行われていることがわかる。	A

6 学校評価総括(取組の成果と課題) 教職員の勤務状況はよく、働きやすい職場となっている。また、学校運営は良好である。学習指導では、学び直しによる基礎学力の充実がみられ、教員が進める「わかる授業」について生徒は高い評価をしている。そのため生徒の資格取得も成果を上げており、卒業時の進路決定も生徒の希望に沿ってなされている。教育相談も、SCや養護教諭・担任間の連絡が円滑に進められており、校務全体が教職員の連携で十分に機能し効果を上げていた。ただし、定時制課程の特質から、生徒の登下校などの把握が難しい点が上げられる。特に、遅刻する生徒の状況を把握し、生徒が学校生活から目がそれないようにしていきたい。

7 次年度への改善策 学校運営は円滑に行われているが、一層教員の共通理解を図り、個々の生徒の抱えている問題に対応できるようにきめ細かな教職員の指導体制を作っていきたい。なお、無断での欠席や遅刻については、生徒や保護者との携帯電話などを使った連絡を今まで以上に、生徒の学校生活が規律あるものになるように努めたい。業務改善については、ベテラン教員の業務のノウハウの蓄積に今後とも努め、教職員の効率的な勤務が図れるようにしたい。
